

# 日本原電は今年の秋、東海第二原発の20年延長申請を出そうとしています

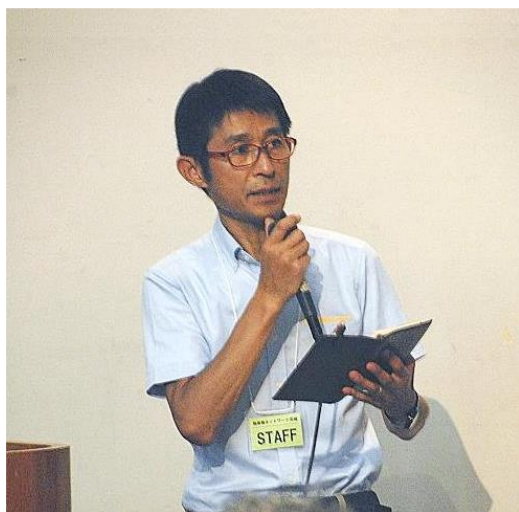
2011年の福島第一原発事故の終息は全く先が見えません。先ごろ、2号機の炉心にロボットが入って内部の様子を映し出したニュースがありました。格納容器内の放射線量が毎時530シーベルトと推定されると発表されていました。(人が近くにとどまれば数十秒で死に至る)ロボットを入れるにも作業用通路に複数の穴があいていて、調査の見通しすらできない状態とのことです。

私たちの住む茨城県内にもホットスポットができ、福島県からたくさんの方々が、家族も仕事も地域も突然分断されて、避難されてきています。

そして、3月11日の地震で東海第二原発も危機一髪だったのです。また大きな地震が来たら…。今現在、停止している間さえ、消防署に通報するトラブルが連続して起こっています。電力会社別炉年(炉の稼働してきた合計年数)あたりトラブル数は他の9電力会社と比較して群を抜いて高い数値を示していました。もうすぐ40年にもなる老朽原発なのに、なぜ、さらにまた20年も動かそうというのでしょうか。

私たちは真剣にこの問題を、自分のこととして考えるべきです。お任せにしていいことはありません。あなたの命、わたしの命、そして家族、友人大切な人たちの命よりも、経済を優先するような不用意な選択をしまわぬように。しっかりと向き合っていく必要があります。

小川仙月さんの貴重な話を聞いて、この問題を傍観しているとどんな危険なことが起こりうるのか、私たちがどんな危険な核爆弾のようなものを県内に抱えてしまっているのか、しっかりと具体的に知りましょう。そして、茨城県の脱原発に向けて、一緒にできることを今から始めましょう。



## 小川仙月 (おがわ せんげつ) さん

### プロフィール


1964年生まれ。筑波大学卒。

1986年、チェルノブイリ原発事故の被害を知り、反原発運動にかかわるようになった。1990年にチェルノブイリ被害の現地、白ロシア(現ベラルーシ)を訪れる。白血病に冒された子供たちの姿を『白ロシアからの手紙』にまとめ出版。日本の原発でも公衆被害をもたらす事故が起きる可能性があると言え続け、福島原発事故以降、県内各地で原発の危険性を知ってもらう学習会を重ねている。2015年より脱原発ネットワーク茨城・共同代表。

ツイッター@ogawabfp 著書:『白ロシアからの手紙』

**生活クラブは、**安心して暮らせる社会を残したいと、組合員と生産者が一緒になって食の安全をはじめ様々な環境問題に取り組んでいる生協です。もとより原発に反対の姿勢をもち、福島原発事故後は独自の放射能測定室を設置し、日本の基準より厳しい放射能自主基準を設けて継続して食材の検査を行っています。検査結果はホームページなどで公開しています。基準を超えて出荷停止になった生産者を切り捨てるのではなく、組合員から集めたカンパ金で支援を行っています。自然エネルギーによる電気の共同購入にも取り組んでいます。一緒に原発に頼らない暮らしをめざしませんか？

お問い合わせ

 0120-067-521

生活クラブ牛久センター  
牛久市猪子町 992-676  
029-874-8510



生活クラブ茨城

検索

## 小川仙月さん講演会 会場案内



土浦市民会館：土浦市東真鍋町 2-6 tel 029-822-8891